



「50歳からの起業の魅力」

～50歳以上で起業した関西の経営者50名へのヒアリング結果～

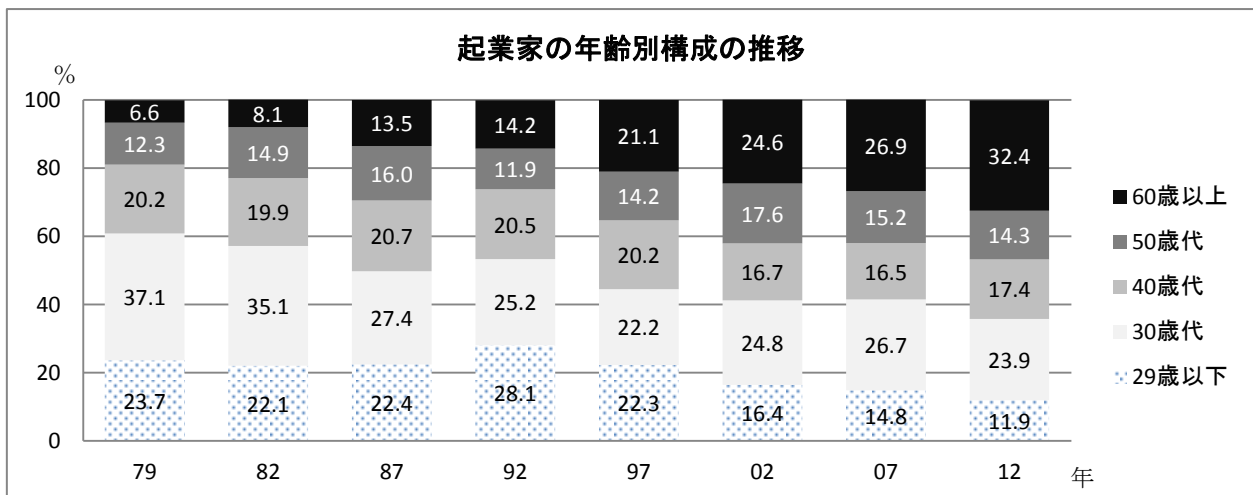
経験、人脈が、「豊富」 資金、時間に、「余裕」 でも、SNSは苦手な人も

50歳からの起業にとって大切なものは、「縁」

企業(特別)ヒアリングの結果について

近畿財務局では、管内の経済情勢等を把握する一環として、27年2月から6月にかけて、50歳以上で起業した関西の経営者を対象に、「起業に至るまでの道のり」、「50歳からの起業における強みや課題」等について、お話を伺いました。

昨今、年間の起業家を起業時の年齢別で見ると、50歳以上の割合が全体の約半数となっており、その割合は増加傾向にあります。実際に50歳以上で起業された方々の生の声を伺うことにより、その実態を把握するとともに、「起業」を選択肢の一つとして考えておられる同世代の方に参考としていただければとの思いで、本資料をまとめました。



(中小企業白書 2014 より)

ヒアリング結果の概要は、以下のとおりです。

1. 起業時のエピソードを独自に分析したところ、「自分の裁量で仕事をしたい」「趣味を仕事にしたい」という「自己実現型」が最も多く、次いで「社会貢献型」、会社の事業撤退・廃業・解雇を機に独立するなど「想定外型」が多くなりました。
2. 未経験分野で起業された方も26%いらっしゃいました。
3. 50歳からの起業における「強み」としては、1位、「経験・人脈が豊富」、2位、「時間に余裕がある」、3位、「お金に余裕がある」となりました。
一方で「課題」としては、1位、「後継者がいない」、2位、「発信力不足」、3位、「前職との関係が複雑」となりました。
4. マイペースで仕事をこなす「ゆるキャリ派」と、サラリーマン時代を上回る仕事量をこなす「バリキャリ派」がいらっしゃいました。
5. 「50歳からの起業にとって大切なもの」を漢字一文字で表現してもらったところ、1位は、「縁」、2位、「忍」、3位、「楽」となりました。

今回のヒアリングは、当局の若手職員(40歳以下)の中から希望者を募り、応募のあった13名で実施しました。

「少子高齢化」「地域経済活性化」が重要な課題となっている現在、意欲と能力のある、いわゆる「シニア」が起業という選択をする際に、「何を考え」、「何を目指し」、「そこにはどんな課題があるのか」、などの生の声を聴き、各自が今後の行政に活かしていくことを目指して取り組んだものです。

今後とも、近畿財務局では、このようなヒアリングの機会を通じて、あるべき関西経済の未来を議論していきたいと考えています。

【お問い合わせ先】財務省近畿財務局

総務部 総務課 企画係

TEL:06-6949-6390

